



東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム
多文化共生・統合人間学プログラム
Integrated Human Sciences Program
for Cultural Diversity

IHS プロジェクト3 講演会

原発事故から5年間、そしてこれから ——放射線測定の実地より——

小豆川 勝見

(本学総合文化研究科 環境分析化学研究室 松尾研究室)



福島原発事故から5年が過ぎました。多くの方の努力によって、事故当初の混乱から脱することができました。しかし、依然として多くの課題が残されていると同時に、新たに発生した問題も少なくありません。本講演では、放射線測定という立場からこの問題に取り組む本学総合文化研究科の小豆川勝見先生をお招きし、事故から5年間の推移について、いくつかの情報提供をして頂きます。

小豆川先生は事故当時より福島第一原発で放射性物質の測定に携わるとともに、現在に至るまで何十回と福島やその周辺地域を訪れ、現地で放射線の測定を続けている放射線測定の専門家です。私たちが普段では知りえないようなお話を伺える大変貴重な機会となっております。数世代にわたって続くであろう放射線の問題について、今を生きる私たちが何を考え何を為すべきなのか、一緒に議論してみませんか。

2016年7月29日(金) 18:00~19:45
駒場Iキャンパス 18号館 4階 コラボ1

司会進行・企画：西堤 優 (IHS/特任助教)

担当教員：渡邊雄一郎 (本学大学院総合文化研究科および IHS/教授)

備考：事前登録不要・参加無料・日本語発表

問合せ：project3[at]ihs.c.u-tokyo.ac.jp

※IHS プログラム生には、参加後「報告書」を提出していただきます。また、本講演会は IHS スタッフにより撮影・録音されます。撮影した画像・映像・音声を IHS の活動報告などにおいて使用させていただく可能性があることをご了承のうえ、ご参加ください。

主催：東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム
「多文化共生・統合人間学プログラム (IHS)」教育プロジェクト3 「科学技術と共生社会」